



高病原性鳥インフルエンザの発生を防止するために

渡貫 剛史

昨シーズンの家きんにおける高病原性鳥インフルエンザは、10月17日に北海道で初発例を確認し、14道県で51事例発生し、約932万羽が殺処分されました。愛知県でも13事例発生し、約171万羽が殺処分となり、経済的被害や鶏卵供給など様々な影響が生じました。

今シーズンも秋以降、野鳥の飛来にともないウイルスの侵入リスクが高まります。農場へのウイルスの侵入防止対策の再確認をお願いします。

1. 人・車両等による侵入の防止

農場の出入口では、外来者の出入りの監視と外来車両の消毒等を徹底しましょう。

鶏舎・鶏舎の出入口では、外来者の出入りは必要最小限とした上で、衛生管理区域を明確にしましょう。

鶏舎・鶏舎内では、踏込消毒槽と手指消毒器具を設置し、作業服や長靴は鶏舎・鶏舎ごとに替えるようにしましょう。

2. 野鳥・野生動物による侵入の防止

鶏舎・鶏舎には網目2cm角以下の防鳥ネットを隙間のないように張りましょう。破損が見つかったら、直ちに補修します。また、壁の破損・隙間の修繕を行い、ネズミ等の侵入防止を心がけましょう。

鶏舎・鶏舎周辺及び農場敷地周囲には消石灰を散布しましょう。

3. 飲用水・飼料による侵入の防止

飲用水は新鮮な水道水を使いましょう。水道水以外を使用する際には、ウイルスの侵入を防ぐため塩素消毒等を確実に行います。

野鳥や野生動物が集まらないように、飼料タンク付近はこぼれ餌がないよう、清潔に保ちましょう。

倉庫は、鶏舎・鶏舎と同様に野鳥等の侵入防止とネズミ駆除を徹底しましょう。

4. 鶏舎・鶏舎内外の整理・整頓・清掃

鶏舎・鶏舎内外の整理・整頓・清掃とともに、周辺の草刈り、木の伐採を行い、ネズミ等の野生動物やスズメ等の野鳥の繁殖・隠れ場所をなくしましょう。

また、水溜まりがあるとそこに野鳥等のエサとなる虫が発生するため、敷地内の凸凹をなくしましょう。

5. 鶏・鶏の健康管理、取扱い

不健康な鶏・鶏は病気に感染しやすくなるため、健康なヒナの導入と死亡鳥の適切な処理を行いましょう。

適切な鶏舎・鶏舎の環境づくり(飼養羽数・換気)や飼料給与など一般的な飼養管理の向上に心がけるとともに、産卵率や死亡羽数など、毎日の観察・記録をしっかりと行いましょう。

参考：社団法人全国家畜畜産物衛生指導協会が作成した冊子「高病原性鳥インフルエンザの発生を防止するために」

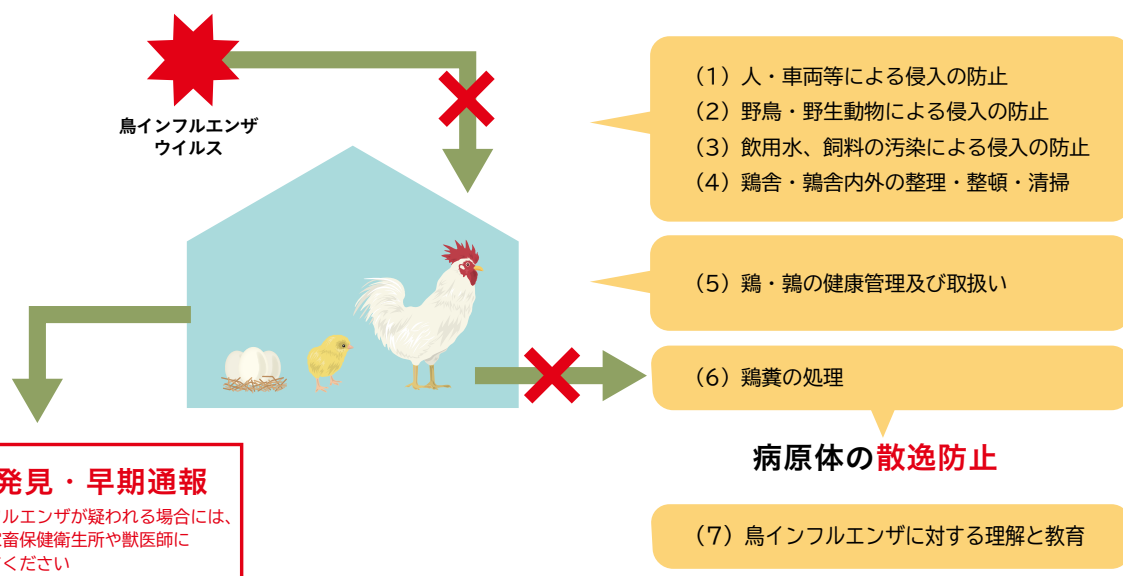


図 高病原性鳥インフルエンザの発生を防止するために